2026（令和8）年2月14日

第1回　地域連携推進会議　（生活支援センター）議事録

議事録作成：生活支援センター　浅沼俊一

・開催日時：2026年2月12日（木）10：00～　　場所：生活支援センター　相談室

・出席者(構成員)

事業所職員　　センター長　浅沼俊一
利用者　　佐々木誠二様　（自治会長）
利用者家族　　佐藤善昭様　（保護者会副会長）
地域の関係者　伊藤将司様　（二戸警察署中山駐在所長）
福祉に知見のある人　千葉盛厚様（NPO法人「きらぼし」事務局長）
市町村担当職員(一戸町)　欠席

・議題

1. 開会
2. 自己紹介
3. 議事
   - ・会議の目的と役割について
   - ・事業所の運営状況報告(利用者の日常生活の様子)
   - ・構成員からの意見・要望の共有
   - ・その他
4. 閉会(閉会後に、共同生活介護「美空」事業所のグループホーム10ヶ所の見学)

・協議内容、意見など

1、2　略

3. 会議の目的と役割について、事業所の運営状況報告(利用者の日常生活の様子)について等、配布資料やPowerPointを基に説明を行った。

構成員からの質問、意見について

・千葉盛厚様

加齢化している利用者に対して、医療的な支援をどのようにして行っていくのか、れもん事業所で通院支援で対応していると思うが、予約通りに診察してもらえない現状で、予定が立てにくいと思う。

⇒通院支援に関しては、ニーズが高くなっている。兼務体制で事業として対応しているが、利用者によっては通院自体が難しい方も増えてきている。また感染症が疑われる場合もあるため、一戸病院、さわやかクリニックともにオンライン診療を実施している。今後、訪問診療も検討している。

・佐々木誠二様

特に質問はない。また旅行に行きたい。

・佐藤善昭様

医療的な部分に対応したグループホームを考えているという話があるが、以前は奥中山学園に病院の先生が訪問診療をしていた。クリスチャンでボランティアで子供たちを診てくれた時期もあった。

⇒今は、一戸病院の院長先生が嘱託医として月一回訪問診療、オンライン診療をしてもらっている。また必要に応じて通院支援で診察をしてもらっている。

カナンの園第８次将来像計画として、グループホームでは医療行為ができないことや物理的に距離もあるため、沼宮内地区にグループホームの建設を検討している。急性期病院だと、緊急時以外は診察してもらえない場合もあるため難しさがある。

・佐藤善昭様

自分の子は生まれてすぐに医大で診てもらったが、成長とともに引き続き医大で診てもらってきた。原因がわかってからも、リハビリ、先生とのつながって診ていただいた。

・千葉盛厚様

本来は対象となる利用者が、医療的な支援、リハビリ、生活など関係者が一連となって一人の方の生活全般をサポートする中に、一部分として私たち障害福祉サービスがあれば一番良いとは思うが、それぞれの分野ごとで連携がとりにくいので難しい。

・佐藤善昭様

将来的に施設の方向性はどのように考えているか。縮小していくのか、それとも沼宮内にグループホームの話があったが拡大していく方向なのか?

⇒縮小せざるを得ない状況だと思う。人口減少の社会にあって、カナンの園に限らず働き手が少ない中で、事業運営も難しい状況となっている。人材不足対策の一環として、法人としては来年度に外国人籍の方を４名雇用する予定となっている。センターに関しては、生活の質を下げないためにも、業務の整理をしながら効率化を図っていく予定。

・佐藤善昭様

ニュースとかで職員の給料アップなどが取り上げられているが、三年ごとの報酬改定を含め、見通しはどのようになっているのか?

⇒職員給与に関しては規定があるので、その中で対応しているが、処遇改善手当に関しては、本来は直接処遇の職員だけの支給のところを、カナンの園としては対象者を広げて支給している。また福利厚生に関しても、奨学金返済支援や傷病時の積立有休制度等、なるべく働きやすい仕組みづくりに取り組んでいる。

・伊藤将司様

外国人籍の方の雇用の話があったが、具体的にどのような方が来るのか?

⇒エース・グローバル・サービス株式会社（人材紹介）と協議をしていて、来年度より来ていただく予定。そのためにも物件等の検討を進めている。コミュニケーションの課題があることや、特に知的障がい者への理解がポイントになると思われる。

・伊藤将司様

認知症の利用者の話題があったが、グループホームに何人いるのか?また運動機能的にはどのような感じなのか。

⇒センターでは４名の利用者が診断を受けている。

寝たきりの方はいないが、介護デイサービスを利用したり、B型や生活介護、一般就労など、皆さん今のところは動くことはできている。

・伊藤将司様

認知症方の取り扱いがあり、健脚である方に関しては徘徊等があれば、捜索範囲が変わってくるので、もし不明になった場合には自分たちで探すのと同時に110番をしてほしい。それよりも歩ける方はどこまでも歩いていくので、時間の経過とともに捜索範囲が広がるため、発見が困難になる。事業所で利用者の管理をしていると思うが、特に認知症の利用者に関しては、写真やどのような服を持っているのか(無い服からその日の服装を確定する)、身体特徴や執着部分、好きなこと、IADL（電車やバスが利用できるなど）等を把握していてほしい。

不明になったらすぐに通報してほしい。職員が捜索して見つからないため1～2時間後に通報されても、捜索範囲が岩手町近辺まで広げないといけなくなる。認知症の方は予想がつかないのでお願いしたい。

センターの課題としては利用者の高齢化が進んでいること、医療的な対応が必要な利用者も増えてきていること、それに伴って職員も不安になってきているので、沼宮内地区のグループホーム建設をきっかけとして、現在のグループホーム体制の検討を進めていく。沼宮内地区のグループホーム（重度高齢化に対応できるGH）については、医療機関との連係をさらに強化できればと考えている。

また自分たちの事業所のみでは、利用者の生活を支えきれなくなっているので、地域を含めていろんな事業所、いろんな方々と連携し、協力を得ながら支えられればと思っている。どこの企業も人材不足だが、福祉の世界は特に人の手が必要な業種なので、人材確保と同時に業務の効率化を図ることで、生活の質を低下させないように工夫をしたい。そのためには書類作成等の業務をIT化する等、職員が利用者支援に集中することで支援の質が下がらないようにしていきたい。

・伊藤将司様

人口が減っている中で、一戸町は令和6年度は13人、令和7年度は20人超えるかどうか。中山の小中学校の会議に参加しているが、2～3人だったと思う。奥中山は地域性もあり障がい者との距離が近いので、興味や関係性から将来的に就職にもつながると思うが、

・佐藤善昭様

昔、自分の子供が奥中山中学校に通っていたが、帰るときに子供たちが手を振ってくれた思い出があり、奥中山の地域性と地域の理解を感じた。運動会も地域と一緒にやっていただき本当に感謝している。

会議終了時間　　午前11時15分

その後、各グループホームの見学をおこなった。